



# 名古屋いのちの電話だより

相談電話〈052〉971-4343

くろしみなやみ いっしょに し み じ み

発行責任者 相馬 信夫  
事務局電話 〈052〉971-5181

No. 7

1986. 11.

クリスマス、歳末が近づいてくると、あちらこちらから「ご協力をお願いします」という便りが届く。また反対に「お役に立てて下さい」と貴い労働のみのり、物品金子がよせられる。

今、私がお金を持っていたら、こんなに気前よく寄付ができるだろうか？ 時間の余裕があったら、何かに困っているどなたかのお役にたてていただくと、わざわざ出かけて行って、私の出来そうなことをさせてくださいと申し出る寛大な心があるだろうか？

いつも反省させられ、こういうことをなさる方々に頭が下る。

たくさん物を持っていたら私だって困っている人々と分ちあう。それは当然のこと、と頭では考えている。でも何かを持っていたら果してそれができるかどうか。時間さえあればちょっと位は……と思うことがある。でも実際には……。

## 一粒の麦

聖霊病院事務局長

川原

恵

まず自分のことを考え、なかなか実行できないのではないだろうか。

ものない、いろいろの面できびしい時代に育った私の目には、現代はまさに「飽食の時代」とつる。衣食住のすべてに満ち足りた多くの人がいる。あまり不足を感じずして過している人が多数を占めていると思われるのに、新聞

がある。この種の講演会などに割合多くの人々が集まるということ自体、精神的なものを求めている人が多いということではないだろうか。たしかに人間は物質だけで満ち足りることを知るものではない。人はパンだけで生きるのではない……と聖書にも書かれている。むづかしいことであるとしても幸いにも私達は、もの、才能、時間など何でも、それぞれ出来ることを通して隣人に仕えていく多くの模範をみる事が出来る。自分の持っているもの、

やテレビに心の重くなるようなニュースが多いのはなぜだろうか。人々は物質的なものに満ちられて、なお飢えているのだ。

一方、人の「いのち」を「もの」のように考え、扱う人がふえてきている。反面、こんな世の中でい

これは神からのもの、それを他人のために使うこと、これは神へのお返し、『一粒の麦、もし地に落ちて死ななければ一つのまま残る。しかし、もし死ねば多くの実を結ぶ。』(ヨハネ 一二・二四)

いのだろうか？と憂い、人々の目と心を「人間のいのちの大切さ」に向けてもらおうと努力している人々

よい模範にはげまされて、日々の小さなことのなかに、私も仕えるものでありたいと思う。

(理事)

## 第八回 いのちの電話全国研修会 「横浜マリンド大会」に参加して

帆をあげよ、いのちの電話、過去、現在、未来をスローガンに九月十九日から三日間開かれました。いのちの電話の担い手として現在の姿を鏡に映し、未来への前進の航路を見出すこと。帆があがったいのちの電話を沈むことなく舵をとるのは漕手の相談員に課せられているとお話しに、大変だないと感じました。分科会では「相談員の成長と自己形成」に参加、プロになってしまったときが怖い。どんな話を聞いても動じなくなる。技術だけではダメで、一語に悲しめる共感と理解が必要。相談員は相談者を土台として成長させてもらっているという話しが心に残りました。もう一つ心に残ったのは夜の懇親会です。立食パーティ

帆をあげよ、いのちの電話、のコールを聞き、横浜大会に参加させていたゞきました。テーマは、いのちの電話の過去、現在、未来でした。全国の方のお話し、講演は、私にとって今思い、考えている事でした。分科会は「危機介入」に出席しました。危機を自分自身も一度しっかり考えたかったからでした。危機とは何か、どれだけ理解出来るアンテナが自分にあるのか、聴く心はどうか、と数々の事を学びました。斉藤先生、石

でお酒も少し入り、リラックスマードの中で他のセンターの方達と親しく話し合え、交わりを深めることが出来てうれしかった。特に印象に残ったのは各センターの余興で、楽しい出し物にお腹を抱えて笑った。なかでも横浜のハワイアンダンスは大喝采、会場は和気あいあいのうちに散会しました。いつか名古屋でも全国大会が開かれるときが来るでしょう。その時にはみんな力で合わせて成功させたいという思いと、それまでに相談員として自己成長しなければとの思いを持ちました。帰りはちょっとしたハプニングがあり、ちょっぴり疲れたが、滅多に出来ない貴重な体験をしました。T.N

井完一郎先生にしかられ、なぐさめられ、はげまされました。電話では何もできない、何もしてあげられないと思っていた事への反省聴く心を持つ大切さを痛感致しました。結果はどうであれ、いつも心を開いて聴く、心を澄まして聴く、原点に立ち帰りました。不完全な自分ながら、本当に聴くことの出来る人になれるように、私の小さな帆を上げて、名古屋いのちの電話の一員として、出発します。S.H

秋風の吹く10月18日ツルカメコーポレーション、第五回ツルカメ社会賞贈呈式に出席のため名古屋観光ホテルの会場に行く。あつお茶を一杯頂きながら隣席の浜松で作業所を運営しておられる方と、互いの活動について話しました。主催のツルカメ社長、メデケア専務、愛知県立大学高森助教、県社協から二名、中日新聞社取締役小山氏がお席につかれて、贈呈式の開催。先ず社長のあいさつでは、宝石を取扱っている会社であること、商業を通じて社会に奉仕しようとして実践していること。援助

### ツルカメ社会賞の贈呈式に出席して

須藤 よし子

額も年々増額している。今回は申請地域を広げられたこと。又私たちの活動をねぎらって下さると共にこれからの活動に期待するとのお言葉でした。次に中日新聞社の小山氏から、選考についての説明がされました。申請件数は東京から大阪まで一四三団体あり、その中から公的援助の無い団体を中心に贈呈件数二四団体、四十万円から五万九千三百円まで総額六百七十七千二百五十円が決定されたとのことでした。続いて社長から各団体ごとに賞状が手渡されました。いのちの

電話は、備品の購入として三十万円の贈呈を受けました。私が代表として僭越でしたがお礼の言葉を申し上げました。「ツルカメ様は宝石で人をさらに美しく飾って下さっている。私たちは関わる障害者や弱い立場の人々の中から宝石を見出しそれをさらに美しく成長させる手助けをすることで自分の中にある宝石もみがかれて、社会がより明るくなっていく」ということを含めてお礼の言葉をのべさせて頂きました。贈呈式のと別室に用意された立食パーティで各団体や主催者、社員の方々とのお話、果物など語らいのうちに、テーブルの飲料、オードブル、和洋料理、果物などのご馳走で心いっぱいみたまされた。社員の方々の細かい心くばりの気持のよい接待と積極的な活動について質問もされておられ感心いたしました。それぞれの方に「いのちの電話」のパンフレットもお渡ししながら苦勞をわかち合いました。「草の根掘世活動」に経済面で援助して下さるツルカメコーポレーションに心から感謝しながら、社員の方々の見送りをうけて帰路につきましました。(運営委員)

### 新しい仲間を迎えて

T・Y

二期生の参加によって、相談室に新しい空気がみなぎっています。

二期生の緊張が伝わり、何かお手伝することはないかしら、とかっての私の姿をタブラせながら、そつと眺めます。緊張しながらも堂々と相手と場を共有しておられる姿に、性の相談に困り、嫁姑の訴えに、相手の気持を聞くだけで疲れてはてた自分と随分違うなアと思っ

て見えています。最初の緊張が取れた頃、セックス電話に、いのちの電話の危機介入って一体どういう事なのかと思ひ悩んだり、さまざま悩んだあげく、相談員を辞していった友人との長い電話を今もつらく思い出します。が、こんな時、支えになるのは、共に訓練を受けた仲間です。仲間は長く相談員を続けていくのに必要なものだと思います。時には憩わせ、なぐ

この間、林靈法先生のお話を聞きました。私は、在日六年余りなので、いつも講演を聞いても、ほとんど理解出来ませんでした。先生のお話は、長い、深い人生経験に基く確固たる信念と自信とが、お話のすみずみにまで溢れており、それが強い説得力となり、よく理解でき、大変印象的でした。

私は、キリスト信者ですが、仏教とキリスト教との違いはあって

さめ、はげまし合えるのです。又三期生の訓練に参加して思うことは、不安やとまどいの中で、与えられた課題をこなすことによって得られる自分への気付きに、うなずいたり、首をかしげたりなさっている姿を、私は仲間が増えるのだとの喜びの目で眺めています。

私達一二期生は、訓練を終えられたあなた達を仲間として迎える日を持ち望んでいます。

さん!!

ボランティア・フォーラム

に参加して

Y・S

九月一日のボランティア・フォーラムでは、小グループによる、分ちあいの場が用意されていた。

小さなまるい輪になって、膝を寄せ合い話し合われた。

電話担当も、相談によっては、も、その宗教の本質において共通した考え方が多く、大変感銘を受けました。特に、生命の尊厳と、

### 理事・委員研修会

に参加して

ピーター・チョーク

人の生命が、個人のこの地上での短い生命というよりも、ずっと創造の初めより永遠にいたるとい

全く想像を越えた内容のものにぶつかる。

又、時には、ショックを隠しきれないこともある。しかし家族にも友人にも話すことは出来ない。

私の胸の中には、何かが消化されずに残って行く。それをほきだす場が欲しい。

私はこのことを、フォーラムの輪の中で聞いていただいた。

受話機を交替で取っての三時間は、聴くことと、記録カードの整理に追われる。時間がくると、どちらかが、お先にと部屋を出る。

そして、一ヶ月一回の継続訓練は二時間びっしり学び、終る頃はお腹も空いて家路を急ぐ。この繰返しの中で、次第にはきだす場のない、うっ積したものが感じられてきた。

胸の中のはきだめの場として、良い機会を与えて下さったことを嬉しく思う。友人とのつながりも大切にしたい。

お話を聞き、そのとらえ方に全く同感いたしました。

又、マザー・テレサのお話が出てきたのには驚きましたが、その深いご理解に大変感動いたしました。そして、人に対する尊敬と愛があれば、お互いが立場の違いを越えて心を通じ合える近い存在であると実感いたしました。

(運営委員・みこころセンター所長)

### 大津橋だより

8月に入って事務局もかわりあって夏休みを取りました。ある人は夏休みはセンターに人がいなくてとでもさびしかったと感想を述べられました。各委員会もなし。

9月1日第一回ボランティア・フォーラム、さまざまな意見が出された。(くわしくは本文で)。

2日近畿地区主事会(於和歌山)。3日近畿地区統計会議(於京都)。

4日第三期生養成講座開始(60余名)。

5日拡大訓練委員会(上半期の決算が出る)。

16日連絡調整係。18日二期生、電話をとるためのオリエンテーション。

19日、21日第8回いのちの電話全国研修会。横浜マリン大会(名古屋より13名出席)。

20日ボランティア新関係。25日担当編成係。27日ボランティア自主グループ。29日ボランティア部リーダー会。30日資源台帳係。

10月7日訓練委員会。8日財務委員会。9日ボランティア新関係。11日ボランティア自主グループ。15日第5回理事会。18日理事・委員研修会(命の尊厳)講師林靈法氏、くわしくは本文で)。

19日記録整理係。20日運営委員会。26日キキ名古屋中央教会バザー(協力者8、10名)。

27日ボランティア部リーダー会(この月より「ボランティア部連絡会」と名称変更)。

30日ボランティア新関係。(協力者3名)。

5日「もしもし」内部通信No.5発行。

6日「全国研修会」横浜マリン大会報告会(18名出席)。

7日訓練委員会。12日資源台帳係。

13日担当編成係。ボランティア新関係。

17日運営委員会 (佐藤)

—募—金—報—告— (1986年8月1日~1986年10月31日) (順不同・敬称略)

賛助会員(A)

芝原慶次	文珠紀久野	柴田純子	伊藤倫子	寺西一雄	大竹以知乃 <sup>⑤</sup>
土肥美枝子	川津錦子	伊藤亥之女	蟹江カトリック教会	直井豊	聖母カテキスタ会
青木恵子	カトリック弥富教会 <sup>②</sup>	ステファニー・レナト	澤村修	高桑宏	市川夏子
豊田英二	豊田寿子	豊田園子	飯尾てる	森川千鶴子	吉田聖
聖盤修道院	国分孝雄	牧岡恒夫	吉田千鶴子	島田正實 <sup>⑤</sup>	(ロゴスセンター) 加藤隆世
木本精之助	加藤迪春	長岡利貞	匿名1名		

合計 44口 440,000円

賛助会員(B)

足立文彦	安藤知津子	白井泰子	中野悦美	浅田井千代子	松井く
金子紀子 <sup>②</sup>	川本昭二	服部富美	河津百合	田畑小川	西村洲
森ひさ子	小川裕子・隆信	佐々木敏	村松正義	小川三子	佐竹一
村手元	神田輝夫	加藤純一	桜井塚博	戸山昌	西村積
小室美奈子	杉山舜一	前田栄子	大塚美登里	松由兼	石垣並
今井文子	西田スエ子	神尾初政	小幡美保	井田智	苗代ボランティア
岡部美代子	松村睦子	岩瀬政邦	宇佐美子		西村勝佳
八木一江	加藤明宏				

合計 47口 235,000円

賛助会員(C)

細田智津子	長沼てる子	瀬尾久子	間瀬喜郎	岡崎恒子	宮田喜代子
中下景子	辻山潤一	辻山さち子	鳥居平	下瀬直美	浦野美登喜子
水野静子	中勝佐か	山橋一衛	松田村谷	川瀬久公	小津武村
田中あさ子	勝野直男	本木川節	中谷小大	木野倉千	白吉志徳
山内亮一	勝沼重小	荒木川マリ	岩田中	平倉伸子	武井永井
佐久間真介	水沼小枝子	小石喜代子	田中久	徳中井山	由湯富
武岡智田鶴子	河原悦毅	石森久寿	田中香	泰文達	瀬美知子
南方喜輝	井元吹	帆	小笠原	山	富
大隅美里	矢				
横井見矢子					

合計 63口 189,000円

法人会員

(有) 岩田電算機会計事務所 名古屋カトリック医師会

合計 2口 20,000円

寄付金(個人)

佐々木さと子 <sup>③</sup>	太田宏次	内川正邦 <sup>③</sup>	楠忠雄 <sup>③</sup>	堀尾治代	今井文子
真木芳子	中村三郎 <sup>③</sup>	土田クリスティーナ	加藤けい子	伊藤範子	生方俊
志村澄江 <sup>②</sup>	小笠原祐次	山口真人	千波富美子	成木さち	中川舖子
石黒豊重	片岡満雄	加藤慎二・順子 (結婚記念)	中根瑞枝	神田よ志	
中川晋介	北條とく子	荻原孝子	黒瀬博	三谷多満枝	小川千重子

合計 38口 430,060円

寄付金(団体)

カトリック一宮教会<sup>③</sup>  
 日本キリスト教団春日井教会婦人会  
 チッポラの会  
 カトリック神言修道会管区長館  
 幼き聖マリア修道院  
 聖盤奉侍布教修道女会  
 聖心会本部修道院  
 聖心会名古屋修道院  
 ツルカメコーポレーション  
 熱田神宮宮庁  
 ドミニコ会聖ヨゼフ修道院  
 合計 13口 518,660円

**賛助会員  
募集中!**

クリスマス・年末募金  
よろしくお願ひします!!

発行  
「名古屋いのちの電話」

事務局  
〒460  
名古屋市中区丸の内三丁目  
6番43号  
みこころセンタービル4F  
TEL <052> 971-5181  
振替 名古屋1-53758  
発行責任者 相馬信夫